

## ASCI2010 Taipei 参加報告

小林靖宏

日本医科大学付属病院放射線科

2010年3月19日～20日、台北にて第4回 Congress of Asian society of Cardiovascular imaging (ASCI) が開催された。

AOCR(Asian Oceanian Congress of Radiology)との合同開催ということもあり、期間中は台湾国際会議センターの広いスペースに熱心な参加者が多数集まっていた。

医局の先輩方はみな AOCR の方に演題を出していたとのことで、初めての海外の学会参加にかかわらず（加えていうなら海外自体があまり経験無いにもかかわらず）単独で向かうことになった。

私はポスターでの参加だったためそちらをまず check していった。

台湾・韓国・中国からも多数参加しており、北京語で大陸系の方と現地の方が熱い discussion を交わしているところを見て、自分ももっと努力しなければと感じた。

ポスターの発表は血管奇形に対しての 3D imaging の有用性を検討したものが多かったように思う。学会活動ビギナーであった私としてはポスターの構成や配色なども大変参考になった。国際学会ではあったが個人的には埼玉医大の Homma 先生が出された心アミロイドシスにおける MRI 画像と病理所見の比較検討のポスターがわかりやすく一番 attractive だったように思う。

企業ブースは 1 階フロアに設置されていた。さすがに日本医学放射線学会のパシフィコ横浜ほどのスペースは無かったが、あまり聞き慣れない現地のメーカーの商品も多数出品されており、熱心な説明を受けた。

Siemens の展示ブースは中でも盛況であり、ワークステーションのデモでは各モダリティ画像の fusion が簡易化されていた(詳細はわからなかったが)。iPhone 端末で画像が参照できるのには正直驚いた。iPad も近日発売になるとのことで、院内の限られたモニター端末を奪い合う光景は遠い昔になるのかと思った。

講演は抄録の中で目を引いた Minn Ting Wu 先生のを拝聴した。繊維化した心筋を MRI のテンソル画像で描出するという大変刺激的な内容であり、MRI の発展性を強く感じた。

夕方になり自分の研究テーマに近かったこともあって、心拍数と冠動脈の増強効果の関係を検討した YD Chen 先生や Af 患者の心臓 CT についての L.Yang 先生の発表なども興味深く拝聴させていただいた。

他にも有意義な講演が多数あり書ききれないが、大変勉強になり刺激を受けた 2 日間だった。このような機会を与えていただいた心臓血管放射線研究会の方々へ感謝したい。